

近畿地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

分担研究者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部 教授）

研究協力者：辻宏幸、後藤大輔、町登志雄、中村文昭（公益財団法人エイズ予防財団）、内田優、有田匡、大畑泰次郎（MASH大阪）、日高庸晴（宝塚大学看護学部）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成23～25（2011～2013）年度、MASH大阪は以下のような研究事業を実施した：

1. 以下の一次予防関連プログラムを執行した：

1) コミュニティレベルのプログラムとして：①月刊のコミュニティペーパー〈SaL+〉（以下〈SaL+〉）の発行を継続して行った。平成21（2009）年度より、エイズ予防/セクシュアルヘルス関連情報を前面に押し出す方式を採用したが、本研究期間中も同様の方針を継続した。平成23年4月～26年1月の期間に、月平均188店舗および43団体に21.8名のボランティアが6,442部を配布した。本研究で実施した介入評価調査の結果、〈SaL+〉読者層は非読者層と比較して、HIV/STIや検査についてより正しい知識を持ち、HIV/STIについて困った時に相談できる友人・団体をより多く知っており、HIV/STIの予防により積極的であることが明らかとなった；②平成24（2012）年11月に中高年MSM層向け季刊コミュニティペーパー〈南界堂通信〉を創刊し、以後3ヵ月おきに発行した。期間中、平均22名のボランティアが197店舗に1,716部を配布した。あらたに新世界地区の複数の商業施設にも配布可能となり、〈SaL+〉より一段と広いクライアント層を獲得しつつある。

2) グループ・個人レベルのプログラムとして：①コミュニティスペース〈dista〉（以下、dista）関連事業を執行した。平成23年4月～26年1月の期間に、月平均628.8名が来場、うち成果の指標である初来場者数は月平均60.3名、期間全体で2,128名であった。カフェイベント、教室、展覧会が頻繁に開催され、相談件数は月平均31.8件であった。②STI勉強会を執行した。毎月趣向を変え、工夫を凝らして開催したが、参加者は平均4.9名に止まった。③若年層ネットワーク構築支援プログラム〈Step〉を随時開催、3年間で総計381名が参加、うち35名がdistaを新規に利用した。

2. 二次予防関連プログラムとして、①〈クリニック検査キャンペーン〉を3年間に渡り実施し、MSMが安心して受診できるクリニックでの検査機会を提供した。3年間で950名のMSMが受検し、うち29名が陽性とわかった。陽性者の受検者総数に占める割合は3.1%であった。②平成23（2011）年度に〈ゲイナイトでの郵送検査キット配布プログラム〉を実施した。1,420名の来場者のうち、278名が検査キットを受け取り、うち100名が実際に検査を受け、うち5名が陽性と分かった。陽性者の割合は高かったものの、医療機関につながったかどうかを確認することが困難だったことから、受検促進プログラムのモデル構築には至らなかった。③平成24（2012）年度に〈クリニックでHIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン〉を実施したが、受検者が少なく、受検促進プログラムのモデル構築には至らなかった。④大阪府および大阪市と協働し、保健所検査に携わる保健師

との情報共有・意見交換を目的に〈プロフェッショナル・ミーティング(PM)〉を期間中に3回開催した。担当者間の情報共有を集中的に行なったことで、地域MSMにおけるHIV感染対策を進展させるうえで成果があった。

3. 三次予防プログラムとして、①コミュニティセンター来場者のうちHIV陽性者に向けて相談サービスを提供した。②NPO法人CHARMがHIV陽性者に提供するプログラム〈HIVサポートライン関西〉〈ひよっこクラブ〉に関して、広報の面で協働した。
4. アドボカシー事業として、京都府、大阪府、大阪市、兵庫県に対して各種提言を行なった。
5. 上記介入プログラムの効果評価ツールとして、コミュニティネットワークを用いたMSMを対象とする性の健康、HIV/AIDS感染予防行動に関する質問紙調査-GCQアンケートを実施した。また、全国8都府県の保健所においてHIV抗体検査の受検者を対象とした質問紙調査を行い、大阪府の調査結果をMASH大阪介入プログラムの効果評価に使用した。

A. 研究目的

本研究の目的は、平成23～25（2011～2013）年度に執行された研究事業を記述・分析し、効果評価と照合することで、個別施策層向け予防介入事業のモデル構築を試みるところにある。

B. 研究対象と方法

本研究の対象は平成23～25（2011～2013）年度にMASH大阪によって執行された予防介入プログラムであり、後述する効果評価の結果と比較検討したうえで考察を加える。

C. 研究結果

1. 一次予防関連プログラム

予防啓発関連のプログラムの実施状況について報告する。

1) コミュニティペーパー〈SaL+〉

（これまでの流れ）

平成12～14（2000～2002）年度に実施した臨時検査イベント〈SWITCH〉を通して得られた情報をコミュニティに還元するツールとして構想されたコミュニティペーパー〈SaL+〉（サルポジ、以下、〈SaL+〉）は、平成15（2003）年度にはコミュニティペーパー的性格を強めつつ浸透、平成16（2004）年度実施したクラブ調査の結果、ベースラインと比較して関連知識、受検行動、予防行動のいずれにおいても、受取り群

には非受取り群と比較して有意な効果がもたされた。

（プログラムの目的）

①HIV感染予防およびセクシュアルヘルスの推進に関してMASH大阪が把握している情報をコミュニティに還元することで、読者層にコミュニティへの帰属意識を涵養し、予防・検査・ケアへの行動変容を促す。

②配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する。

（事業の展開）

平成21（2009）年度にエイズ予防・セクシュアルヘルス関連情報を前面に押し出す方式を採用し、本研究期間中もそれを踏襲した。

（配布実績）

平成23～25（2011～2013）年度の配布実績を表1に示した。

表1. 2011～2013年度における〈SaL+〉の配布実績

年度	店舗数 (月平均)	団体数 (月平均)	配布部数 (月平均)	ボラのべ数 (月平均)
2011	192 店舗	42 団体	6,668 部	17.5 名
2012	184 店舗	42 団体	6,293 部	24 名
2013	187 店舗	45 団体	6,365 部	21 名
合計	188 店舗	43 団体	6,442 部	20.8 名

(効果評価)

平成23～25（2011～2013）年度に実施した調査の結果、HIV予防に関する知識・行動・意識と〈SaL+〉接触の有無との関連について以下のような結論を得た：

- ① 〈選べる!!STI検査1,000円キャンペーン〉受検者アンケートの結果、〈SaL+〉認知率は2011年度61%、2012年度46～58%、2013年度59%であった。
- ② 2013年度に実施したGCQアンケートの結果、認知率は65.3%であった。しかしながら年齢別にみると、40歳以上の回答者における認知率が73.9%であったのに対し、35-39歳で81.1%、30-34歳で75.5%、25-29歳で61.3%、24歳以下50.2%と、若年層になるほど認知率が下降する傾向が見られた。このことは、〈SaL+〉のターゲット層と実際に読んでいる層の間にミスマッチが生じていることを示唆している。
- ③ 保健所での抗体検査を受検したMSM中の認知率は21.8%であった。

以上から、ゲイタウン利用層における〈SaL+〉の認知は、平成20～22（2008～2010）年度クラブ調査時の水準とほぼ同じ水準であり、ほぼ飽和状態に達していると考えられるが、ターゲット層には必ずしも届いていないことが分かった。この背景としては、若年層の活字離れが考えられる。また保健所受検者調査結果からは、〈SaL+〉認知層は非認知層に比べて、結婚している割合が低く、HIV/STIや検査についてより正しい知識を持ち、HIV/STIについて困った時に相談できる友人・団体をより多く知っており、HIV/STIの予防により積極的であることが明らかとなった。

2) 中高年MSM向けコミュニティペーパー〈南界堂通信〉の開発と配布

(これまでの流れ)

大阪地域においては平成19（2007）年度以

降、エイズ発症後に陽性と分かる中高年MSMが急増、平成22（2010）年大阪府におけるエイズ患者報告数のうち40歳以上が占める割合は56%であった。このことは、中高年MSM層における予防啓発および検査のニーズが極めて大きいことを示唆している。MASH大阪ではミドルエイジ・プロジェクトを立ち上げ、中高年MSM層向け予防啓発紙媒体とニーズ調査を行い、平成22（2010）年度にゲイタウン商業施設オーナー&従業員向けの〈男とセックスする男のためのAIDS & LIFEガイドブック—ミドルエイジ編—〉を発行した。平成23（2011）年度からは新たな定期刊行物（季刊）発行準備のため、ボランティアで構成する編集局を組織、平成24（2012）年11月に〈南界堂通信〉創刊号を発行した。

(目的)

HIV 抗体検査受検のニーズ、早期治療のニーズが極めて高い大阪地域の40歳以上の中高年MSM層に向けて必要な情報を提供し、予防行動、受検行動を促す。

(方法)

ターゲット層とほぼ同じ年齢層のボランティアで編集チームを組織した。資材は定期的に発行し（当面は季刊）、継続的にターゲット層のエイズ関連情報へのアクセスを促進させる。ここでいう中高年層とは40歳以上を指すが、特に40歳代、50歳代MSMをメインのターゲットとする。

これまでの調査や活動実績から、中高年MSMにはエイズの知識のみを前面に押し出す資材は手に取ってもらえないことが分かっており、予防啓発関連情報だけでなく、MSM関連の教養、セクシュアルヘルス、ライフスタイルに目配りした情報を提供することで、この先も健やかで充実した人生を送れるようなライフプランを提供しつつ、予防行動、受検行動の促進につなげることを編集方針とした。

(結果)

〈南界堂通信〉の配布実績を表2に示した。

表 2. 2011～2013 年度における〈南界堂通信〉の配布実績

年度	号	店舗数 (月平均)	配布部数 (月平均)	ボラ のべ数 (月平均)
2012	創刊号 第2号	199 店舗	1,628 部	23 名
2013	第3号 第4号 第5号 第6号	195 店舗	1,804 部	21 名
合計		197 店舗	1,716 部	22 名

これまで〈SaL+〉の配布には消極的であった新世界地区の複数の商業施設が、〈南界堂通信〉の配布に協力した。その理由は、中高年 MSM 向け資材であること、字が大きく読みやすいこと、の 2 点であった。

(効果評価)

平成24 (2012) 年11月に創刊号、以後3ヶ月毎に平均195店舗と45団体に配布した。利用者から「字が大きくて読みやすい」「中高年向け資材の発行を待っていた」などの声が寄せられた。新たにプログラムの担当者を置き内容の拡充と体制の強化を行った。記事内容に医者や医療従事者へのインタビューや、地域の歴史、中高年特有の疾患などに合わせて、エイズ関連の情報を掲載している。

各種調査のデータはまだ少ないが、2013年度に実施した〈選べる!!STI検査1000円キャンペーン〉受検者アンケートの結果では、〈南界堂通信〉の認知率はまだ12%に止まるが、コミュニティベースで実施した調査GCQアンケートでは、年齢別にみると24歳以下8.7%、25-29歳で10.6%、30-34歳で10.6%、35-39歳で13.4%、40歳以上20.1%であり、ターゲット層に届いていることが示唆された。

3) コミュニティスペース〈dista〉

(これまでの流れ)

MASH 大阪が運営するコミュニティスペース〈dista〉(以下、dista) が開設されたのは平成 14 (2002) 年。翌平成 15 (2003) 年度か

らエイズ予防財団の委託事業と位置付けられた。平成 21 (2009) 年度から施設は国の事業として維持・管理され、MASH 大阪がプログラムを運営する体制となった。

(機能および目的)

(1) 予防啓発プログラムを戦略的に展開するための拠点。(2) コミュニティメンバーがふらっと立ち寄り、セクシュアルヘルスやコミュニティ関連の情報に接触する情報センター。(3) コミュニティメンバーに向けての交流・文化・啓発プログラムが執行されるコミュニティセンター。

(対象クライアント)

ゲイ関連施設従業員、ゲイ関連施設利用者、インターネット利用者、エイズ対策関連団体・個人の 4 者を想定している。

(相談体制)

平成 22 (2010) 年度から月一回のペースで運営ミーティングを開催、相談事例についての情報共有を通じて相談サービスの質の向上をはかってきた。

(到達目標)

以下のような到達目標を平成 23 (2011) 年度初頭に設定した：

- (1) dista の認知率を 70% に引き上げる。
- (2) 新規来場者数を月平均 100 名に引き上げる。

表 3. 2011～2013 年度の dista の利用状況

年度	総来場者数 (月平均)	新規 来場者数 (月平均)	イベント開催状況
2011	610.9 名	63.5 名	・週末イベント (6 種) ・教室 (手話、韓国語、中国語、アート) ・展覧会 ほか
2012	637.8 名	58.3 名	・週末イベント (6 種) ・教室 (手話、韓国語、中国語、アート、障害者支援 他) ・展覧会
2013	637.8 名	59.1 名	・週末イベント (6 種) ・教室 (手話、韓国語、中国語、アート、障害者支援 他) ・展覧会 (3 件)
総数	22,644 名	2,171 名	

(効果評価)

認知率については、①<選べる!!STI検査1000円キャンペーン>受検者アンケートの結果、dista認知率は平成23(2011)年度72%、平成24(2012)年度66~72%、平成25(2013)年度63%であった。②平成25(2013)年度に実施したGCQアンケートの結果、認知率は50.6%であった。年齢別にみると24歳以下35.2%、25-29歳で48.1%、30-34歳で61.1%、35-39歳で69.2%、40歳以上53.8%であり、30代の認知率が最も高かった。認知率については、目標はほぼ達成されたといえる。

(2)MASH 大阪では新規来場者数をコミュニティセンター事業の効果評価の指標と捉えており、新規来場者数を月平均100名に引き上げるという到達目標を設定したが、この目標は達成されなかった。3年間の新規来場者総数は1,794名(平成25年11月末現在)であり、堂山地区商業施設利用層のうち14人に1人がこの3年間にdistaを訪れていることになる。

4)STI勉強会

(これまでの流れ)

STI勉強会とは、エロネタや恋愛ネタを中心に身近で興味をひくようなテーマを設定し、一義的で啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合い、その雰囲気を共有するものである。自分達にとってのSEXを考え、語ることにより、SEXに対する興味や意識を喚起し、SEXと密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。

(方法)

実施手法として以下の点が挙げられる。

①リラックスできる場づくりのため、カフェ形式を採用し、ファシリテーターを設け対話形式で展開する。②プログラム最後に15分程度、STIやセーフセックスを意識するよう

な仕掛けを設ける。③広報として<SaL+>やdista.bでの告知、SNS等を用いた。

(成果)

本研究期間中は、予算の削減に伴い、平成21(2009)年度までのような専属ボランティアスタッフによる運営体制を構築できず、不十分な体制による運営となったこともあり、プログラムの質は維持されたものの、参加者は大幅に減少した。

プログラムの実施状況を表4に示した。

表4. 2011~2013年度におけるSTI勉強会の実施状況

年度	参加者数 (月平均)	新規 参加者数 (月平均)	企画タイトル例
2011	6.3名	3.3名	・初めての☆☆ ・HIVについて
2012	4.2名	3.5名	・My コントームを探そう! ・STI 体験談
2013 (2014年1 月まで)	4.3名	2.4名	・My ローションを見つけよう ・梅毒について

5)若年層ネットワーク構築支援プログラム<Step>

(目的)

コミュニティにあまりアクセスしていない10代~20代の若者をターゲットとしたプログラム。プログラムの目的として、①コミュニティや、MASH大阪に未接触の若者に対する入り口となる事；②参加者がdistaへアクセスするようになる事；③他のプログラムへのボランティア・リクルートになる事、があげられる。

(方法)

事業は以下の点に留意しつつ展開した。①啓発色を前面に出さず、季節感やお得感、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施する。②distaへアクセスするきっかけを提供する。③SNS(ソーシャルネットワークサービス)を中心とした広報宣伝を行う。④プログラムに関わるスタッフの友人の中であまりSTI

の情報に触れていないクライアントの参加を促進させる。⑤企画運営は主にコミュニティの若者が中心に行う。

(成果)

本プログラムも〈STI 勉強会〉と同様、予算の削減のため十分な体制で運営することが困難となった。その結果、参加者数、コミュニティセンター来場につながった数のいずれも減少した(表 5)。特に後者は、平成 20～22(2008～2010)年度と比較して 124 名から 35 名に大幅に減少した。

表 5. 2011～2013 年度における〈Step〉の参加状況

年度	参加者数 (実施回数)	新規 参加者数	dista 流入数 の内、新規来 場者数
2011	129 名 (5 回)	38 名	12 名
2012	80 名 (4 回)	25 名	4 名
2013	172 名 (11 回)	25 名	19 名
合計	381 名 (20 回)	88 名	35 名

6) 相談

相談事業の年次別推移を表6に示した。

表6. 2011～2013年度における相談事業の実施状況

年度	件数(月平均)	内容	備考
2011	16.2件	A群：26% B群：70% C群：4%	A群：HIV関連 B群：セックス、 人間関係、ラ イフステージ、依 存 ほか
2012	42.3件	A群：19% B群：79% C群：2%	
2013	37.0件	A群：31% B群：66% C群：3%	C群：その他
合計	31.8件 相談総数805件		

2. 二次予防関連プログラム

1) クリニック検査キャンペーン

(これまでの流れ)

MASH 大阪では、阪神圏地域の HIV 抗体検査体制の整備と拡大をはかるため、平成 19

(2007) 年度に大阪府立公衆衛生研究所および大阪 STI 研究会と連携して本プログラムを立ち上げ、MSM が心理的・物理的にアクセスしやすい検査場を創出することで検査機会の大幅な向上を目指した。平成 19～22(2007～2010) 年度の実績を表 7 に示した。

表 7. 2007～2010 年度における
クリニック検査キャンペーンの実績

年度	提携クリニック数 (検査項目)	期間	受 検 者 数	陽性者数 (陽性率)
2007	3カ所 (HIV, HBV, 梅毒)	2ヵ月	28 名	4名 (14.3%)
2008	7カ所 (HIV, HBV, 梅毒)	1.5月	17 名	1名 (5.9%)
2009	7カ所 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, 淋菌, クラジア)	8ヵ月	272 名	12名 (4.4%)
2010	7カ所 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, クラジア)	8ヵ月	263 名	15名 (5.7%)

平成 21～22(2009～2010) 年度においては、MSM の受検機会の拡充および安心して行けるクリニックの周知という 2 つの目的が達成された。この実績をふまえ、本研究においても、研究を継続し、MSM 向け二次予防推進のための研究モデル事業として展開した。

(目的)

診療所・クリニックを活用し、MSM に対して、彼らが受検しやすい HIV/STI 検査受検機会を提供することにより、エイズ発症に至ってから自分が HIV 感染していることに気づく人を減少させ、ひいては HIV/STI の感染拡大を抑止することに寄与することを目指す。

(方法)

- (1) 本プログラムを理解し、協力の得られる診療所・クリニックを開拓した。協力診療所・クリニックによって、通常検査もしくは迅速検査のいずれかを選択できる。
- (2) MASH 大阪はフライヤー、ポスター、ホームページ、twitter、ハッテン場ロッカー、各種 SNS などを利用し、1,000 円の自己負

担で HIV/STI 検査が受けられることを広報する。平成 23～24 (2011～2012) 年度はハッテン場ロッカーにマグネット資材を貼り付ける体制を構築し、実施した。

- (3) 検査前後の不安へのサポートとして、① dista、②CHARM・HIV サポートライン関西(電話)が相談対応にあたる。
- (4) 受検者には、採血後に調査票アンケート(診療所・クリニックで回収)に記入してもらう。

(成果)

2011 年度から 2013 年度の実績を表 8 に示した。

表 8. 2011～2013 年度における
クリニック検査キャンペーンの実績

年度 (財源)	提携クリニック (検査項目)	期 間	受検 者数	陽性者 数 (%)
2011 (エイズ予 防財団委 託事業)	7 ヵ所 (4 ヵ所:通常検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, クラミジア) 3 ヵ所:即日検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV))	3 カ 月	189 名	6 名 (3.2%)
2012 (①エイズ 予防財団 委託事業、 ②大阪府 委託事業)	7 ヵ所 (4 ヵ所:通常検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, クラミジア) 3 ヵ所:即日検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV))	① 3 カ 月	235 名 (通常 52、迅速 183)	6 名 (2.6%)
		② 3 カ 月	202 名 (通常 49、迅速 153)	10 名 (5.0%)
2013 (大阪府委 託事業)	8 ヵ所 (4 ヵ所:通常検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, クラミジア) 4 ヵ所:即日検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV))	① 2 カ 月	222 名 (通常 68、迅速 154)	6 名 (2.7%)
		② 3 カ 月	102 名 (通常 25、迅速 77)(2014 年1月末 現在速報 値)	1 名 (0.9%)
合計	8 ヵ所 (4 ヵ所:通常検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV, クラミジア) 4 ヵ所:即日検査 (HIV, HBV, 梅毒, HCV))	14 カ 月	950 名 (2014 年1月末 現在速報 値)	29 名 (3.1%)

本プログラムにより、3 年間で 950 人の MSM が性感染症クリニックで受検し、うち 29 人が

陽性と分かった (2014 年 1 月末現在)。受検者に占める陽性者の割合は 3.3%であり、検査ニーズの高い層に届いたプログラムであった (同時期の保健所検査における陽性者の割合は 0.1%前後であった)。

大阪地域のすべてのハッテン場のすべてのロッカーに資材が設置されるという状況を創出することができた。協力施設のロッカー数は計 1,346 個であった。

クリニック・診療所の医師から陽性結果を受け取った時に資材をもらったことにより、陽性の人のためのサービスやプログラムを知り、利用するに至った人がいることが確認された。本キャンペーンをきっかけに、クリニック・診療所と地域サービスの連携が強化されてきていることが示唆された。

2)ゲイナイトでの郵送検査キット配布プログラム

(目的)

我が国最大級のゲイナイト・イベント<NUDE>の会場の一部を利用し、一次予防・二次予防のプログラムを組み合わせた<club THIRD>を実施し、普段 HIV/AIDS に関心を持たない、もしくは検査に行きにくい環境にある MSM に対し予防啓発のメッセージとともに受検行動を促進する。

(方法)

①会場に HIV/STI 予防啓発のための展示を行なった；②郵送検査の限界とデメリットを確認した来場者に対し、郵送検査キットを配布した。

(結果)

<NUDE>に参加した 1,420 名のうち 278 名 (19.5%) に検査キットを配布した。実際に検査キットを利用した MSM は 100 名、うち陽性割合は 5%であった。

(成果)

受検ニーズの高い層に検査機会を提供したことは評価されるが、医療機関につながった

かどうか確認できないというデメリットは払拭できず、受検促進プログラムとしてのモデル構築には至らなかった。しかしながら郵送検査会社との連携は、ますます普及する傾向にある郵送検査の現状を知るうえで有効であった。

3) クリニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン

(目的)

これまでに実施した〈クリニック検査 1,000 円キャンペーン〉のノウハウを活かし、若年層向けの新たな検査機会を創出する。

(方法)

本キャンペーンの資材として、大型クラブイベント参加者向けブックレットを作成し、クリニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーンの受検案内ちらしを挟み込みをし、来場者全員に手渡しで配布した。

(結果)

実施にあたり、計 6 ヶ所の診療所・クリニックの協力を得ることができた。大型クラブイベントには、計 1,300 名の来場があり、全員に資材を手渡しで配布する事が出来たが、受検者は 6 名に止まり、若年層向けの新たな受検促進プログラムのモデル構築には至らなかった。

4) プロフェッショナル・ミーティング (PM)

(目的)

プロフェッショナル・ミーティング(以下、PM)は、大阪地域在住の MSM に対し HIV 感染に関して予防と検査に関わるプログラムを提供する行政セクターの専門職者(保健師、派遣カウンセラー等)、および予防や検査のプログラムを提供する市民セクターで働く専門職者(NGO 職員、ボランティア)、これら二つのセクターにまたがる情報共有とネットワーク構築の場を恒常的に創出することで、大阪地域における MSM の HIV 予防と検査をめぐる環境

を向上させることを目的とする。

ネットワーク構築の具体的な成果としては、①行政セクターの専門職者が大阪地域在住の MSM の予防・検査行動に関する情報を得ることで、MSM に対しより質の高いプログラムが提供できるようになる；②市民セクターの専門職者が地域全体の検査場における MSM 対応状況を把握することで、MSM への検査行動の促しに活用できるようになる、の 2 点が挙げられる。

(結果)

2012 年度と 2013 年度の実績を表 9 に示した。

表 9. 2012 年度と 2013 年度における
プロフェッショナル・ミーティングの実績

	参加者(所属)	プログラム
1回目 2012年 7月2日	30名 (大阪府本庁、池田保健所、四条畷保健所、藤井寺保健所、守口保健所、大阪市北区・旭区保健センター、大阪市本庁、高槻市保健所、CHARM、大阪医療センター)	①クリニック検査キャンペーン報告②大阪市実施のMSMアンケート結果報告③名古屋市大実施の大阪地域保健所受検者アンケート報告④懇談会
2回目 2013年 2月4日	36名 (大阪府本庁、堺市保健所、四条畷保健所、大阪市北区・中央区・淀川区・平野区・城東区・生野区・浪速区・住吉区保健センター、大阪市本庁、SWASH、東大阪山路病院)	①大阪市淀川区取組み報告②クリニック検査キャンペーン報告③共同保健師研修について；④懇談会
3回目 2013年 5月29日	24名 (大阪府地域保健感染症課、堺市保健所、四条畷保健所、池田保健所、大阪市北区、淀川区、大阪市保健所、CHARM、スマートらいふネット、府立公衆衛生研究所)	①大阪地域保健所受検者アンケート結果報告②大阪地域 HIV 感染対策の現状と今後について報告③懇談会

(成果)

「NPO・NGO と行政の情報共有・課題共有の場となった」「他行政の取り組みを知ることができた」といった記述がみられ、縦割り行政の枠組みを超えた情報共有・課題検討の場になった。

互いに顔の見えない関係でなくなったことで、今後の連携・協働に道が開かれた。実際、本研究期間中に大阪市北区、淀川区、高槻市、

堺市の保健所が検査普及週間のプログラムを執行する際、MASH 大阪が広報で協力した。

3. 三次予防関連プログラム

dista来場者のうちHIV陽性者に向けて相談サービスを提供した(表6再掲)。

表6. 2011～2013年度における相談事業の実施状況

年度	件数(月平均)	内容	備考
2011	16.2件	A群：26% B群：70% C群：4%	A群：HIV関連 B群：セックス、人間関係、ライフステージ、依存 ほか
2012	42.3件	A群：19% B群：79% C群：2%	
2013	37.0件	A群：31% B群：66% C群：3%	C群：その他
合計	31.8件 相談総数805件		

これによると、全相談件数のうち19～31%がHIV/AIDSに関わるものであった。ただし、その中に占める陽性者の割合は明らかにされていない。

NPO法人CHARMがHIV陽性者に提供するプログラム<HIVサポートライン関西><ひよっこクラブ>に関して、広報の面で協働した。

4. アドボカシー事業

期間中、以下のようなアドボカシー事業を行なった：

- 1) 平成 23(2011)年 1 月に開設された大阪市エイズ対策評価検討会議に委員として参加した。
- 2) 平成 23～25 (2011～2013) 年度、京都府エイズ予防啓発ボランティア『紅紐』のコーディネータを派遣した。また京都府在住 MSM で dista 来場者に相談サービスを提供した(京都府健康福祉部健康対策課感染症担当との協働)。

D. 結論

1. 一次予防関連プログラム

1) コミュニティレベルのプログラム

<SaL+>は、すでに長期間継続的に実施され、その効果も実証されているが、若年層の活字離れという要因もあってか、ターゲット層への訴求力が弱まっていることは否定できない。一方、期間中に創刊した中高年層向けのメディア<南界堂通信>は比較的順調にターゲット層に浸透しており、編集体制も整備されつつある。

2) 個人・グループレベルのプログラム

コミュニティセンターの月平均初来場者数は、平成 20～22 (2008～2010) 年度に比較して低水準に止まったが、平成 25 (2013) 年度 9 月以降は持ち直した。予算の削減とそれによるスタッフ力の低下により、STI 勉強会および若年層ネットワーク構築支援プログラム<Step>のいずれも、参加者数が低水準に止まった。

2. 二次予防関連プログラム

- 1) 平成 20～22 (2008～2010) 年度から引き続き執行された<クリニック検査キャンペーン>は、本研究期間中を通じて主に大阪府の予算(地域医療再生基金事業)で執行され、大阪府立公衆衛生研究所のコーディネートにより 8 ヶ所の性感染症クリニックが参加して実施された。平成 26 (2014) 年度 1 月末までで計 950 名の MSM が受検し、うち 29 名が陽性とわかり、その割合は 3.1%であった。つまるところ本プログラムは次のような重要な成果を生み出した：①3 年間で一千名前後の MSM に検査機会を提供し、うち 30 名前後の HIV 陽性者に医療機関へのアクセスを促すことができた；MSM が安心して受診できる 8 つの性感染症クリニックを大阪地域 MSM に周知したことで、彼らの医療機関へのアクセスを大幅に向上させることができた；③広報を展開する中で、大阪地域のすべ

ての商業的ハッテン場のすべてのロッカーに本プログラムの広報資材を配置することができた。この①～③は、中高年向け予防啓発資材<南界堂通信>の発行と並び、本研究における最も大きな成果といえる。

2) MSM にとっての保健所における検査環境を向上させるために PM を開催し、調査結果等を共有することで、MSM が受検しやすい保健所検査環境の構築に向けて一歩踏み出すことができた。

E. 考察

コミュニティレベルの予防啓発プログラム群においては、月刊の若年層向け紙媒体<SaL+>は、これまでの調査研究でその有効性は検証済みであるが、本研究で実施した GCQ アンケートの結果、ターゲット層である若年層 MSM には必ずしも届いていないことがわかった。この背景としては、編集チームがターゲット層のニーズを十分に捉えられていないことが考えられる。一方、ターゲット層とほぼ同じ年齢層で編集チームが構成されている<南界堂通信>は、着実に中高年層 MSM に浸透していることが伺えた。

個人・グループレベルの予防啓発プログラム群は、予算削減によって十分なスタッフ体制を構築できず、いずれも成果を生み出すには至らなかった。しかし dista 自体の認知率は極めて高い水準を維持しており、プログラム企画力が今後の課題といえる。

二次予防（受検促進）関連のプログラムとしては、<クリニック検査キャンペーン>が期間中を通じて毎回 200～250 名の受検者を集め、また陽性者の割合が平均 3.1%であるところからも、一定のニーズを創出できたといえる。その要因は、①MSM がそのことを表明することなく、安心して受検できる環境を構築したこと；②場所と時間の利便性に配慮したこと（例えば日曜日の午前中に受検できるクリニックがある、都心と郊外どちらも受

検できる、など）；③千円という低料金であったこと；に求められる。

<クリニック検査キャンペーン>のもう一つの成果は、その広報を展開する中で、すべての商業的ハッテン場のすべてのロッカーに広報資材を設置することができたところにある。その要因は、①12年間に渡るアウトリーチの積み重ねの結果、ハッテン場オーナー・従業員の HIV/AIDS に関する意識が高まっていたこと；②資材をマグネットにするなど、設置に最小限の手間で済むようデザインしたこと；③ハッテン場オーナー・従業員と交渉するに十分なスタッフ体制を構築できたこと；の3点に求められる。

<郵送検査キット配布プログラム>および<HIV&梅毒受けてみるキャンペーン>は、前者は医療機関へのつながりが不十分な点で、後者は受検者が少なかった点で、いずれも受検促進プログラムのモデル構築には至らなかった。

MSM の受検環境を向上させるうえで、PM も有効なプログラムであることが示唆された。その要因としては、①平成 18～22（2006～2010）年度に執行した「エイズ予防のための戦略研究」の期間中に開催した報告会のノウハウがあった；②縦割り行政の隙間を埋める性格を持つプログラムであった；地域の課題に直面する専門家集団というアイデンティティを喚起するプログラムであった；が挙げられる。

F. 論文発表等

（論文発表）

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 60 卷(10 号), 639-650, 2013
2. Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji,

- Toshio Machi, Daisuke Goto, Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, *Sexual Health*, 23 February 2012
3. 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一:ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因- 大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から, *日本公衆衛生雑誌*, 2011, 58(7), 501-514
(口頭発表)
 1. Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, *The 11th ICAAP, Bangkok, Thailand*, 2013
 2. 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 市川誠一: MSM 向け HIV 検査普及プログラム「クリニック検査 1000 円キャンペーン」広報についての考察, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 3. 牧園祐也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 4. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊広, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 5. 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一: 診療所を窓口とした MSM 向け HIV 検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 6. 後藤大輔, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 萬田和志, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベントにおける郵送検査キットを用いた検査普及プログラムの試行と課題, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 7. 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 塩野徳史, 岳中美江, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 診療所を窓口とした個別施策層向け HIV 検査普及プログラムの確立に向けた検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 8. 川畑拓也: シンポジウム「クリニック検査キャンペーン」における医療機関への支援, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 9. あかたちかこ, 下山美穂: 本の都市圏における Hard to Reach Population に対する HIV 予防啓発資材の開発と配布- 当事者と協働した HIPHOP 系クラブイベントでの実践報告を中心に-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 10. 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 古林敬一, 亀岡博, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 田端運久, 大里和久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 1 報 - キャンペーンの改善点と検査結果, *日本性感染症学会第 25 回学術大会*, 岐阜市, 2012
 11. 後藤大輔, 岳中美江, 鬼塚哲郎, 古林敬一, 亀岡博, 大里和久, 岩佐厚, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) -

- 第 2 報-検査普及啓発資材について, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
12. 塩野徳史, 市川誠一, 川畑拓也, 大里和久, 古林敬一, 岩佐厚, 亀岡博, 田端運久, 高田昌彦, 菅野展史: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 3 報 - 受検者の特性, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
 13. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄: MSM 向け予防啓発大規模イベントの継続が大阪の MSM コミュニティに与えた効果, 第 53 回日本社会医学学会総会, 高槻市, 2012
 14. Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
 15. 鬼塚哲郎, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 山田創平, 塩野徳史, 市川誠一: 大阪の屋外啓発大規模イベント『PLuS+』とその評価, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 16. 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策, 平成 23 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会, 2011
 17. 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策, 第 1 回 AIDS 文化フォーラム in 京都, 京都市, 2011
 18. 岳中美江, 辻宏幸, 川畑拓也, 有馬和代, 古林敬一, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一: エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント PLuS+における MSM を対象とした HIV 迅速検査会の実施について-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 19. 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策- エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 20. 大野まどか, 岳中美江, 柏木瑛信, 白野倫徳, 伊達直弘, 野坂祐子, 松浦基夫, 矢島嵩, 生島嗣, 青木理恵子, 市川誠一: 地域における新 HIV 陽性者対象のプログラム実践について-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 21. 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策- エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 2 回日本性感染症学会関西支部学術大会, 京都, 2011